

令和元年度病虫害発生予報第5号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稻	いもち病（穂いもち）（ 注意報第2号 ）	—	多
	紋枯病	並	やや多
	縞葉枯病	やや少	やや少
	トビイロウンカ（ 防除情報第10号 ）	並	やや多
	コブノメイガ	並	並
	穂吸汁性カメムシ類	やや少	並
大豆	ハスモンヨトウ	少	やや少
いちご （育苗床）	うどんこ病	並	並
	炭疽病（ <i>Glomerella cingulata</i> ）	並	並
	輪斑病	並	並
	ハダニ類（ 注意報第3号 ）	多	多
アスパラガス	斑点性病害（褐斑病・斑点病）	やや少	やや少
	アザミウマ類	並	並
かんきつ	かいよう病	並	並
	黒点病	少	少
	ミカンハダニ	やや少	やや少
	チャノキイロアザミウマ	やや多	やや多
びわ	がんしゅ病	少	少
	ナシヒメシンクイ	並	並
果樹共通	カメムシ類	少	少
茶	炭疽病	やや少	やや少
	チャノキイロアザミウマ	やや少	やや少
	チャノコカクモンハマキ	並	並
	チャノホソガ	並	並
	カンザワハダニ	やや少	やや少
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	並
	クワシロカイガラムシ	少	少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

普通期水稻

1. いもち病（穂いもち）

令和元年8月16日付け、**病虫害発生予察注意報第2号**による。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月前期の巡回調査（85筆）の結果、発病株率は1.3%（0.6%）、発生圃場率は15.3%（12.7%）であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発病株率は37.0%（6.4%）であった。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

粉剤及び液剤は株元に十分薬剤が付着するよう丁寧に散布する。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月前期の巡回調査（85筆）の結果、発病株率は0.0%（0.1%）発生圃場率は2.4%（10.3%）であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生は認めなかった（発病株率 0.0%）。

ウ 8月前期の巡回調査（85筆）の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.1頭（0.2頭）、発生圃場率は28.2%（64.2%）であった。

エ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、株当たり虫数は0.2頭（0.4頭）、寄生株率は18.0%（25.3%）であった。

4. トビイロウンカ

令和元年8月16日付け、**病害虫発生予察防除情報第10号**による。

5. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月前期の巡回調査（85筆）の結果、食害株率は3.8%（3.8%）、発生圃場率は38.8%（33.7%）であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、食害株率は48.0%（17.1%）であった。

6. 穂吸汁性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月前期のイネ科雑草におけるすくい取り調査（24地点）の結果、捕虫網による10回すくい取り当たり虫数は10.8頭（14.1頭）と平年よりやや少なかった（表）。カメムシ類の種別では、アカスジカスミカメが最も多かった（表）。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

表 イネ科雑草でのすくい取り調査における虫数の推移

種類別							発生地点率	
	H27	H28	H29	H30	平年	R1	平年	R1
ホソハラカメムシ	1.6	2.4	1.3	1.6	1.6	0.6	79.3	70.8
クモヘリカメムシ	1.1	0.7	0.6	0.8	0.9	0.2	49.6	41.7
シラホシカメムシ	0.3	1.0	0.4	0.7	0.6	0.4	53.3	45.8
アカスジカスミカメ	15.0	14.5	7.6	5.5	10.7	9.5	87.8	75.0
ミナミアオカメムシ	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	2.5	4.2
計	17.9	18.7	10.0	8.6	14.1	10.8		

注) 平年はH21～30年の最大・最小値を除いた平均値

(2) 防除上注意すべき事項

- ア カメムシ類の飛来・増殖源であるイネ科雑草の除去等、圃場環境整備に努めるが、水稻の出穂10日前以降の除草はカメムシ類の圃場内への侵入を助長するので避ける。
- イ 防除時期は穂揃い期とその7～10日後の2回が基本である。
- ウ 水田への飛来が多くなる夕方に薬剤散布をおこなうと効果が高い。
- エ 薬剤散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守するとともに周辺環境（ミツバチや水産動植物等）に配慮し、薬剤の飛散に十分注意する。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 8月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(幼虫の寄生株率3.9%、株当たり虫数0.1頭、白変葉発生圃場率50.3%)。
- イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年より少なく推移している(図)。
- ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

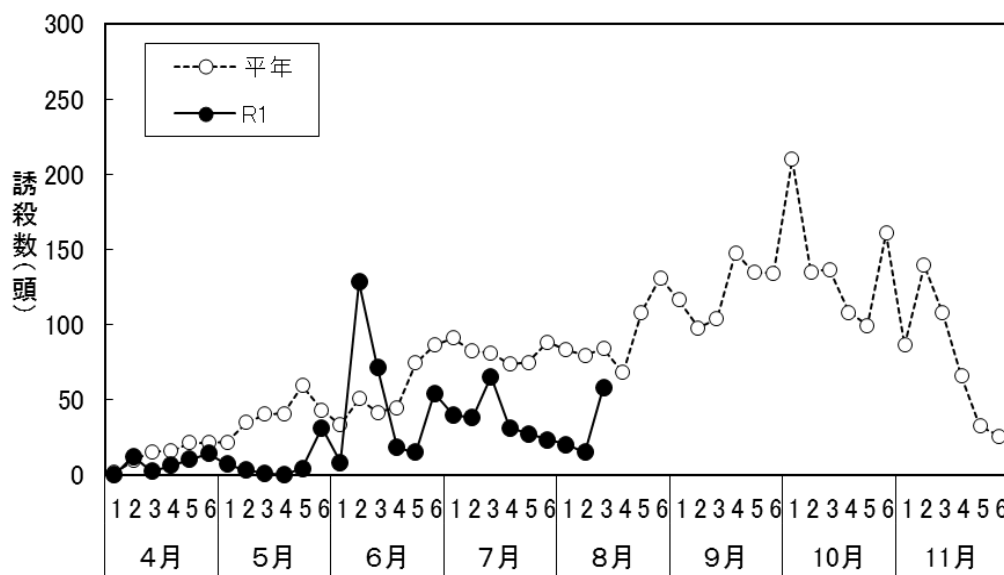


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越) (月・半月)
平年:H21~H30年の平均値(最大・最小値除く)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。
- イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査(29筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率1.5%)。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査(29筆)の結果、発病株率は0.3%(0.1%)、発生圃場率は6.9%(8.2%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、発病した苗およびその周辺株は速やかに処分する。また、除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
- イ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に激しい雨や台風などの前後、下葉除去など株を傷つけるような作業後は重点的に行う。
- ウ 育苗床が多湿にならないように、連続した長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実にを行う。また、除草を徹底するなど、環境整備に努める。
- エ 株冷・夜冷処理を行う場合は、入庫前に必ず感染株の抜き取りを行う。また入庫による株の消耗で発病が助長されるため、入庫前後の薬剤防除は必ず行う。

3. 輪斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査(29筆)の結果、発病株率は13.0%(12.0%)、発生圃場率は62.1%(52.8%)であった。

4. ハダニ類

令和元年8月16日付け、**病害虫発生予察注意報第3号**による。

アスパラガス

1. 斑点性病害 (褐斑病・斑点病)

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査(11筆)の結果、発病側枝率は0.4%(3.3%)、発生圃場率は36.4%(41.0%)であった。

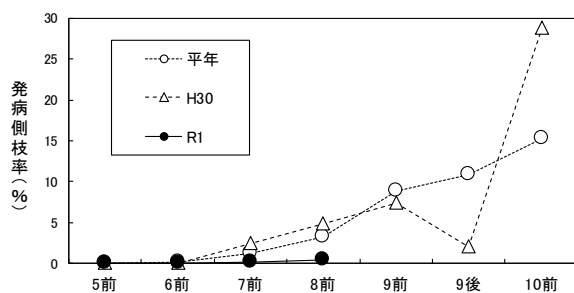


図 斑点性病害 発病側枝率の推移

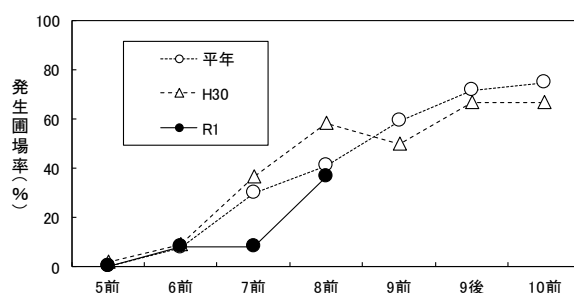


図 斑点性病害 発生圃場率の推移

2. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査（11筆）の結果、払い落とし虫数（10.5 cm × 22.5 cmの白色板に5回×10ヶ所）は7.6頭（14.7頭）、発生圃場率は81.8%（68.3%）であった。

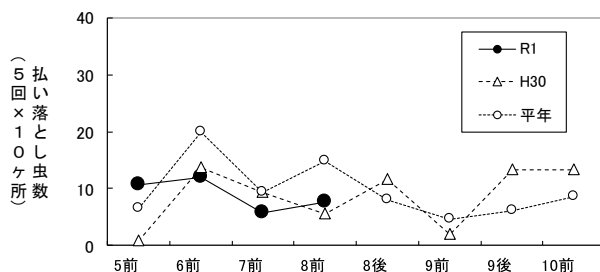


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

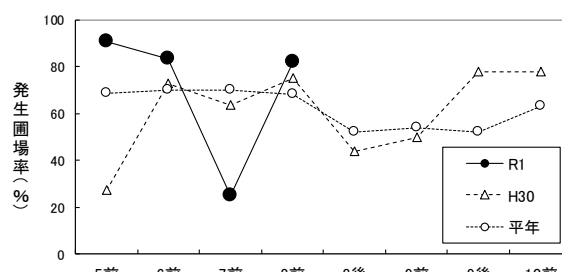


図 アザミウマ類 発生圃場率の推移

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率は0.0%（0.1%）、発生圃場率は5.6%（7.2%）であった。発病果率は0.1%（0.1%）、発生圃場率は5.6%（4.8%）であった。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病果率は0.8%（7.5%）、発生圃場率は8.3%（41.6%）であった。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は3.6%（13.1%）、発生圃場率は36.1%（55.6%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 盛夏期を過ぎて気温が低下してくると発生が増加するので、発生初期に防除する。
- イ 薬剤感受性の低下を防ぐために、同一薬剤は連用しない。
- ウ 薬剤感受性が低下している場合があるので、効果の高い薬剤を選定する。具体的データについては、病害虫防除所ホームページの[かんきつのミカンハダニ薬剤感受性検定結果](#)参照。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 8月前期の巡回調査(36筆)の結果、果梗部の被害果率は2.0%(1.3%)、発生圃場率は33.3%(18.9%)であった。果頂部の被害果率は1.0%(0.1%)、発生圃場率は16.7%(4.3%)であった。
- イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年よりやや少～平年並で推移している(図)。

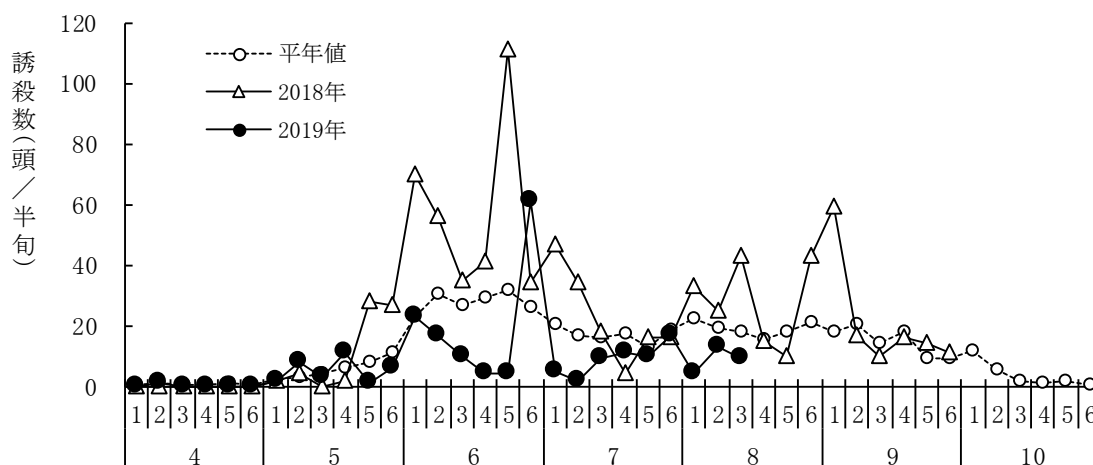


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (諫早市小船越町:黄色粘着トラップ) (月・半旬)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した発生ピーク予測日を下表に示した。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸
第5世代	8/4	8/4	8/13	8/6	8/17
〃 (平年)	8/5	8/11	8/15	8/6	8/20
〃 (前年)	7/28	8/2	8/7	7/30	8/11
第6世代	8/20	8/20	9/1	8/23	9/4
〃 (平年)	8/22	8/29	9/2	8/23	9/9
〃 (前年)	8/13	8/18	8/24	8/16	8/28
第7世代	9/6	9/7	9/21	9/10	9/27
〃 (平年)	9/8	9/18	9/23	9/9	10/2
〃 (前年)	8/29	8/10	9/12	9/2	9/17
標高(m)	27	4	43	10	58

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2019年8月15日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では発生ピーク予測日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3: 表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発病枝葉率1.1%、発生圃場率27.5%)。

2. ナシヒメシンクイ

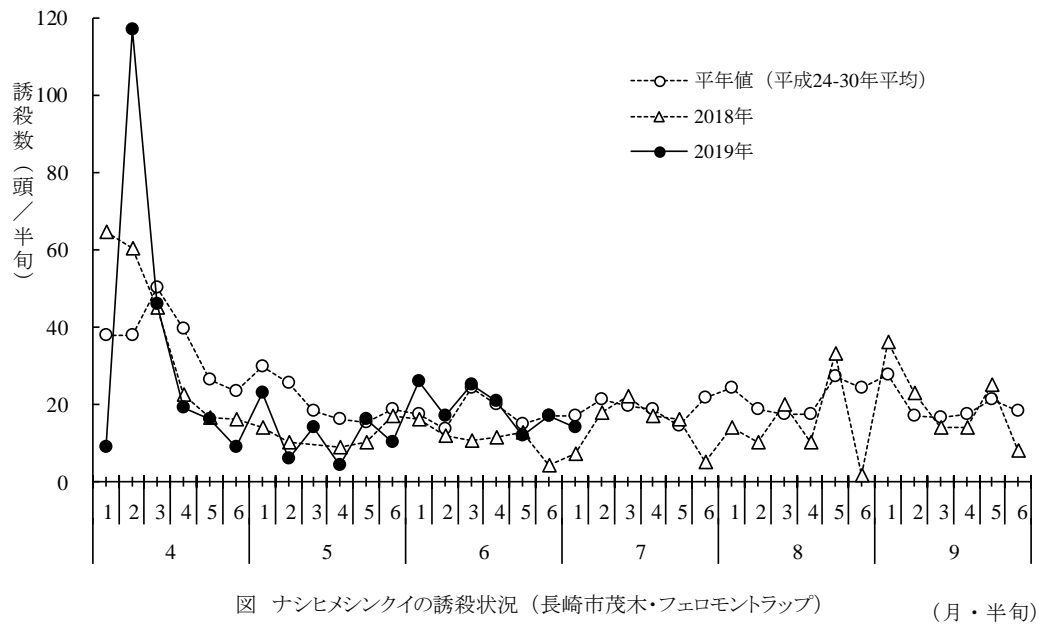
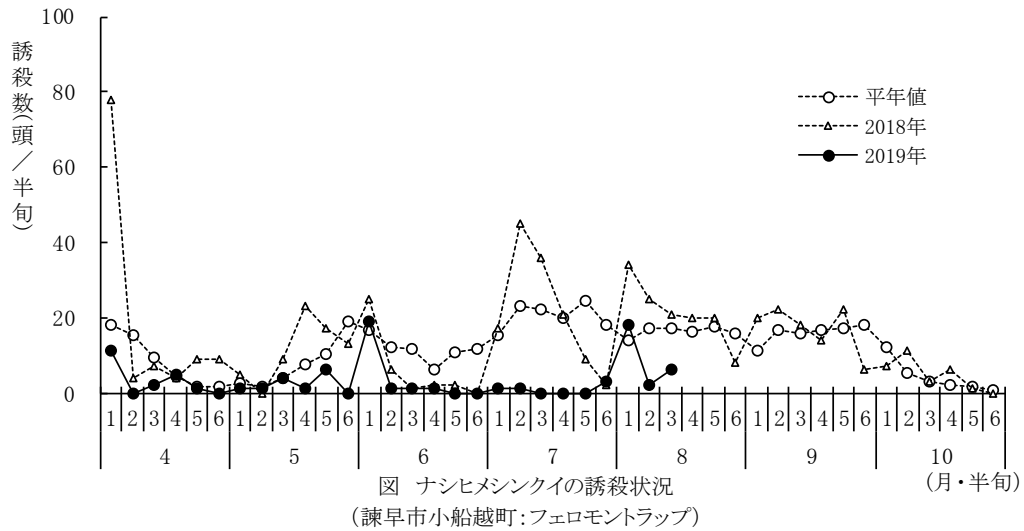
(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月前期の巡回調査(10筆)の結果、寄生枝葉率は0.1%(0.1%)、発生圃場率は10.0%(5.0%)であった。

イ 諫早市小船越町のフェロモントラップの誘殺量は平年より少なく、長崎市茂木は平年並で推移している(図)。



果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容
発生程度 少

(2) 予報の根拠
ア フェロモントラップの誘殺量は、諫早市、南島原市、西海市で平年より少なく推移している(図)。

イ 7月下旬に実施したヒノキきゅう果のビーティング調査の結果、1枝当たりの寄生虫数は0.9頭(2.3頭)と平年より少なく、県内15地点の平均着生量は3.5(2.6)と平年より多かった(令和元年8月7日付け**病害虫発生予察技術情報第2号**参照)。

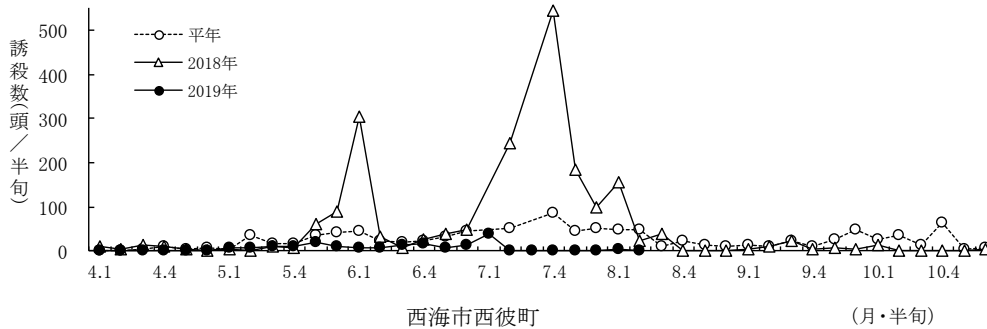
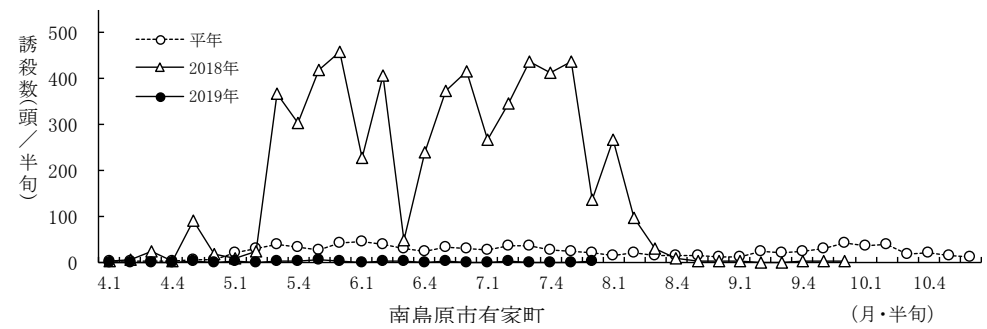
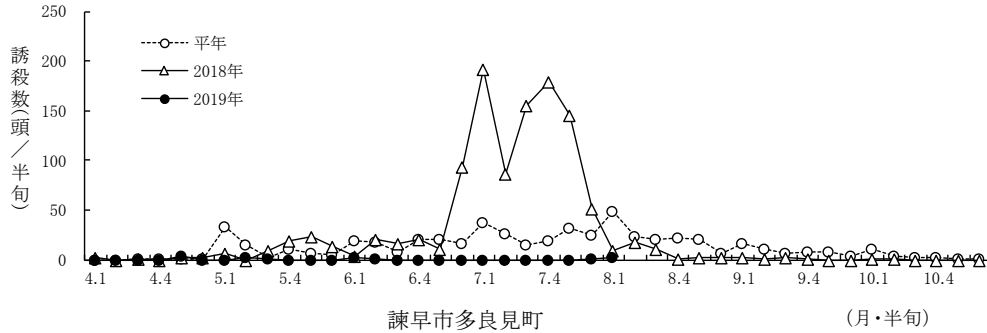
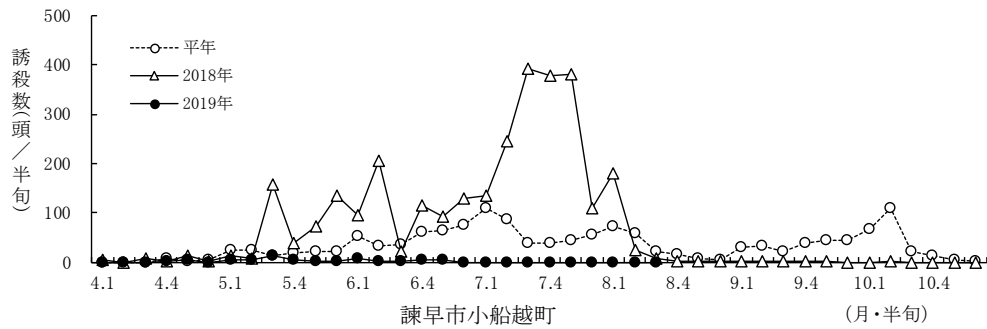


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 山林に近い園地や毎年発生を認める園地などでは、飛来予測日を目安に見回りを徹底し、カメムシ類の飛来が認められた場合には早急に防除を行う（令和元年8月7日付け**病害虫発生予察技術情報第2号**参照）。
- イ 飛来時期や飛来量は園地によって異なる場合があるので注意する。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査（19筆）の結果、1㎡当たり発病葉数は0.3枚

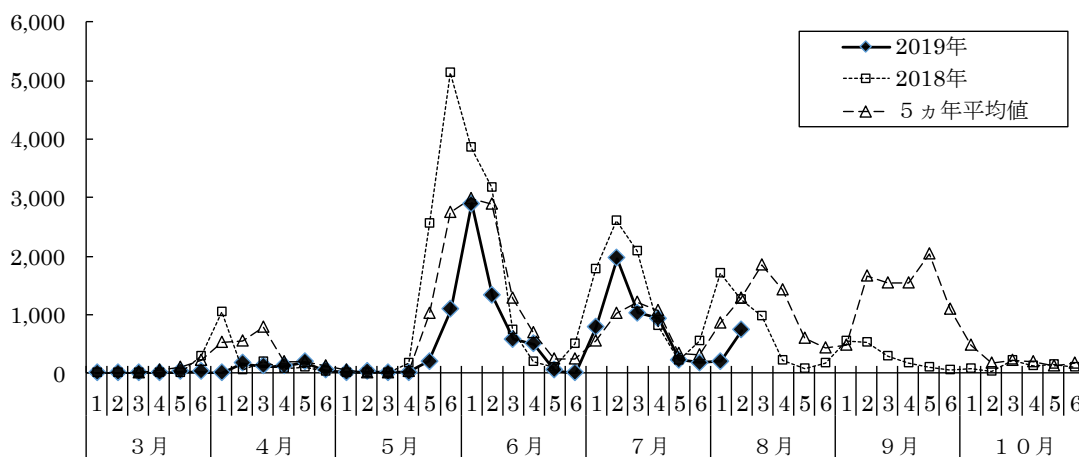


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査（19筆）の結果、発生を認めなかった（寄生葉率0.8%、発生圃場率19.5%）。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は2.1頭（3.1頭）、発生圃場率は47.4%（57.0%）であった。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

8月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生株率は1.3%（10.7%）、発生圃場率は15.8%（43.1%）であった。

【参考】

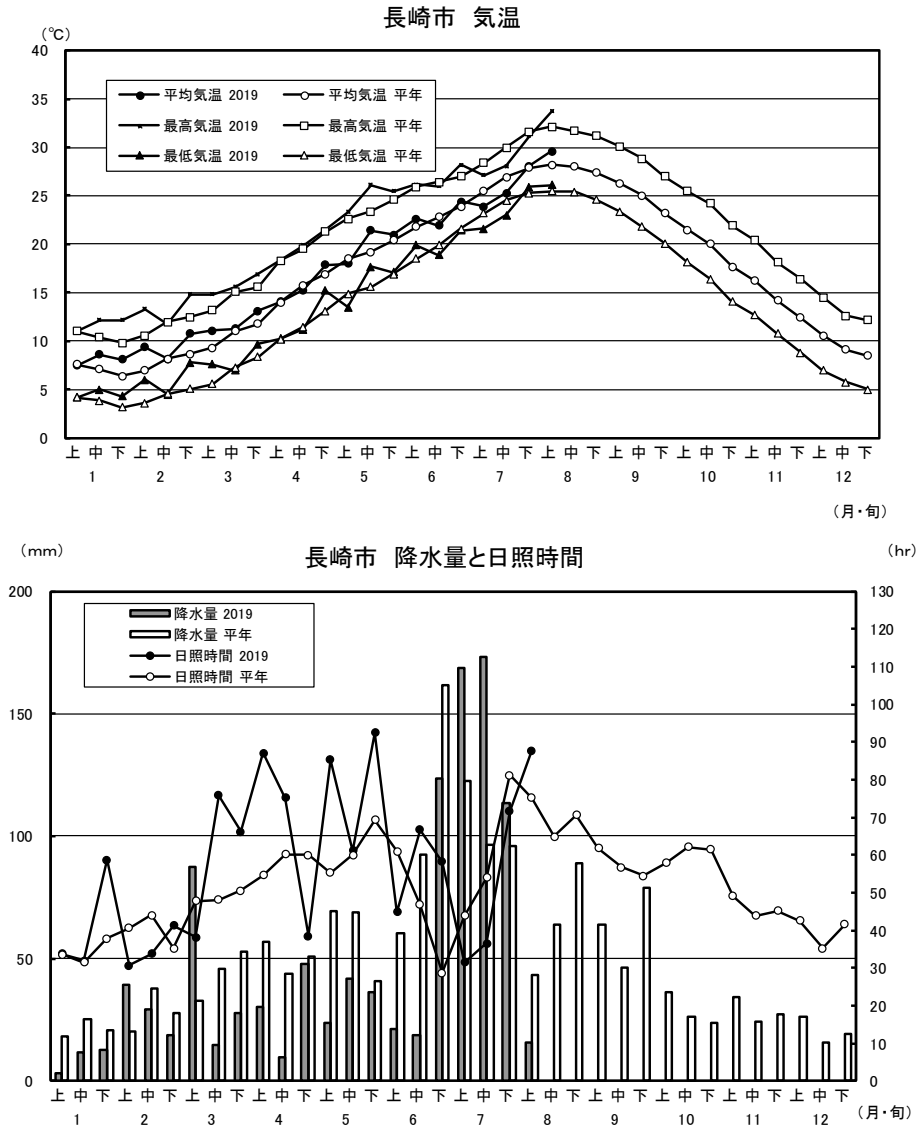
(令和元年8月15日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	40	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和元年の気象経過（長崎地方気象台）



○6月1日から8月31日までの3か月間を「農業危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○水稻穂吸汁性カメムシ類防除のため水田に散布する殺虫剤により、「蜜蜂」に被害が生じる可能性がありますので、十分な配慮をお願いします。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」アドレス：<http://www.jpnn.ne.jp/nagasaki>

○この情報に関するお問い合わせは、電話をお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

